

第286号

平成17年度 第2号

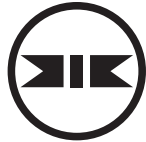
親潮

北水同窓会

<http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp>

平成18年2月28日

食文化の急速な国際化に伴い
水産総合商社を目指す道水



株式会社 道水

代表取締役会長 高野洋藏 (24年製造科卒業)
代表取締役社長 高野元宏

水産物卸売及び加工販売、水産物輸出入、冷凍冷蔵倉庫、不動産賃貸業

本社	函館市豊川町27番5号	TEL(代) 0138)22-7136	FAX 0138)22-3777
はこだて工場	大野町字清水川142番24号	TEL 0138)77-2200	FAX 0138)77-1800
韓国支店	大韓民国釜山廣域市中區中央洞四街53-17(第一火災ビル9階)	TEL 82-51-462-2456	FAX 82-51-462-1567
東京営業所	東京都港区芝浦4丁目16番36号(住友芝浦ビル)	TEL(代) 03)3451-0194	FAX 03)3451-1945
札幌営業所	札幌市中央区北12条西20丁目1番26-301号(第2丸果ビル)	TEL 011)640-7822	FAX 011)640-7833
仙台営業所	宮城県仙台市榴岡4丁目5番24号(第一パークビル2F)	TEL 022)791-7017	FAX 022)791-7018
長岡営業所	新潟県長岡市台町1-8-26(グリーンピア台町)	TEL 0258)31-0231	FAX 0258)31-0232
名古屋事務所	愛知県名古屋市港区小碓3丁目126番地(丹羽マンション2棟231号)	TEL 052)389-5775	FAX 052)389-5775
中国大連事務所	中華人民共和国遼寧省大連市中山区祝賀街35号(錦联大厦1710号)	TEL86-411-8252-7815	FAX86-411-8252-7912
現地法人	DOHSUI AMERICA, INC. 4209, 21st. West Suite 305 Seattle WA98199-1271 U.S.A.	TEL 1-206-284-8939	FAX 1-206-284-9273

創基100周年記念募金の開始とお願い

北海道大学水産学部創基100周年記念事業の一環としての「北海道大学水産科学研究院教育研究・学術交流支援基金」のために、今までご厚志をいただいております同窓各位に感謝申し上げます。お陰様で現在のところ、募金は順調に進行している状況といえます。ご寄附は「募金趣意書」に記載いたしました記念事業の実施のために使用させていただきます。

19世紀に源流を持つ水産学は、札幌農学校初期の内村鑑三の志を引き継ぎ、今、21世紀の初めに水産科学として地域と連携しながら、北海道大学の理念の一つである国際性を身に付けた人材を育成できる基盤ができつつあります。一層高い志として、「世界レベルの研究教育拠点形成」を水産科学研究院の新たな目標として掲げます。

今後とも、北海道大学水産科学研究院（教員が所属する研究組織）・水産科学院（大学院学生の教育組織）・水産学部（学部学生の教育組織）の発展に格別のお力添えを賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成18年1月

北海道大学大学院水産科学研究院

研究院長 山内 皓 平

（北海道大学水産学部創基100周年記念事業実行委員長）

北海道大学水産学部創基100周年

記念事業推進後援会

会 長 横 山 清

なお、寄附者名簿等は記念式典等の記念行事が終了後、お送りする予定としておりますのでお知らせいたします。

第 86 回（2006 年）北水同窓会定期総会

主管 大阪支部に決定

第 86 回（2006 年）北水同窓会定期総会が大阪支部で開催されることが決まりました。
下記要領で開催いたします。全国各地より多数の会員の皆様の出席をお待ちしております。

平成 18 年 2 月吉日
北水同窓会大阪府支部一同

開催要領

- ◎開催日 2006 年 5 月 20 日（土） 受付 14：00～15：00
- ◎会 場 トップラウンジ・31
大阪市北区中之島 6-2-27 中之島センタービル 31 階
電話 06－6445－1977
※中之島センタービル内にビジネスホテルがあり宿泊も可能
ホテル NCB 電話 06－6443－2255
- ◎議 事 15：00～16：10 支部総会・本部総会
- ◎講 演 16：20～17：20 講演者：遠藤彰三 氏
題：『世界の水問題について』
講演者略歴：1962 年北海道大学、鉱山工学部卒業
元大阪ガス(株)副社長
現大阪ガスケミカル(株)会長
2005 年関西エルム会会長
- ◎懇親会 17：30～19：30 懇親会費 5000 円
- ◎問合せ先 問合せは、郵送または FAX で 北水同窓会大阪府支部事務局まで
〒530-0001 大阪市北区梅田 1 丁目 2 番 2-200 号
大阪駅前第 2 ビル 2 階 北大会館内
FAX・TEL 共通 06－6343－3736
※ 大阪府支部事務局の者が常駐していませんの
で、郵送・FAX での問合せを御願ひ致します

中之島センタービル
 トップラウンジ・31

大阪市北区中之島6-2-27



- 地下鉄 阿波座駅⑨番出口より徒歩10分
- 地下鉄 玉川駅より徒歩10分
- J R 野田駅より徒歩10分
- J R 大阪駅より約5km
- 地下鉄 淀屋橋駅より約3km
- 南海 難波駅より約6km

- 市バス JR大阪駅前より⑤3又は(特53)乗車
 船津橋駅下車 (中之島センタービル前)

親 潮 (第286号)

目 次

お 願 い

- 会費納入のお願い
- 同窓会ネットワーク誌「親潮」への広告のお願い
- 北海道大学水産学部同窓会ホームページのお知らせ

本部だより

- 創基100周年の募金状況について……………猪上 徳雄 (41セ) …… 1

寄 稿

- ある一つの戦史 青函連絡船・戦災の碑……………山井 喬志 (32ゾ) …… 1
- 北水馬術部……………佐藤 彩 (学生会員) …… 1

支部・会員だより

- 昭和34年卒同期会……………伊藤 尚人 (34セ) …… 3
- 平成17年度愛知県支部総会開催される……………藤井 洋治 (42ギ) …… 3
- 二五会 (昭和25年増殖科卒) の集い……………小林 哲夫 (25ゾ) …… 4
- 八紘会 (昭和17年卒) 関東地区会の会合……………添田 恒 (17ヨ) …… 5
- 創基100周年の募金に寄せて……………吉田 弘司 (28セ) …… 5
- 第15回臥牛会 みちのくに集う盛岡大会……………日野 輝夫 (24セ) …… 6
- 北海道大学水産学部第45期 卒業50周年記念 函館大会報告……………狩野 守 (30セ) …… 7
- 北水同窓会京滋支部総会・懇親会と新役員……………目片 徳治 (33ゾ) …… 9
- 北水第38期 (22年卒) 北陸の旅に思う……………市川 渡 (22ギ) …… 9
- 29年卒 長靴会の集い……………川原 浩 (29セ) …… 11
- 青春を甦らせる臥牛会 (第2報) ………………眞田 博美 (28セ) …… 12
- 栃木県支部総会・懇親会報告……………阿久津正浩 (平9ギ) …… 16
- 壽洋会 (24年遠漁卒) 函館に集合……………松浦 亮平 (24エ) …… 16
- 平成17年度北水同窓会長崎支部例会報告……………大坂 幸男 (63ゾ) …… 18

追 悼

- 一途で律儀だった石瀬和正君 (22ギ) を思う……………市川 渡 (22ギ) …… 19
- 宮野平三君 (23セ) の急逝を悼む……………白田 正臣 (23セ) …… 20
- 大先輩新谷泰造さん (9セ) に捧げる……………倉 健蔵 (24ギ) …… 20
- 会員死亡通知…………… 21

学内ニュース

- 学位取得者と論文題目…………… 22
- 会員異動…………… 22
- 有朋自遠方来不亦楽乎…………… 22
- 表紙写真説明…………… 23
- 編集後記…………… 24
- 投稿規定…………… 24

お 願 い

◆会費納入のお願い◆

北水同窓会の年会費（4,000円）の納入をお願い申し上げます。

本部の運営は、この同窓会費ですべて賅っておりますが、近年不況のためか会費の納入率が低下しております。会員の皆様におかれましては本会の運営維持のため今年度分からでもぜひお納め頂きたくお願い申し上げます。なお、過去の未納分は問いません。

また、昨年末に平成17年度北水同窓会会員名簿が発行されましたので、まだ入手されていない方は**至急今年度分の会費を納入**して下さるようお願い申し上げます。会員名簿は会費を納入された方に無料で配布致します。

会費納入の際には、本号巻末に綴じ込みの郵便振替用紙をご利用下さい。また、郵便局にてご自分で振替用紙にご記入される場合には、下記の振替口座番号および加入者名をご記入下さい。併せて郵便自動払込制度をご利用されたい方は、本部に自動払込利用申込書がございますのでご用命ください。すでに郵便自動払込の手続きをされている方は、毎年7月31日に引き落としになりますので通帳の残高の確認をお願い致します。

振替口座番号：02620-5-581

加入者名：北水同窓会

なお、会費納入方法のお問い合わせ、住所変更等のご連絡につきましては北海道大学水産学部同窓会（〒041-8611 函館市港町3-1-1、電話&FAX：0138-42-3681、E-mail：hokusui@hotweb.or.jp）で承っております。電話受付時間は午前9時から午後3時までです。

同窓会ネットワーク誌「親潮」への広告のお願い

同窓会誌「親潮」への広告を募集しております。つきましては、従前からの広告主は勿論のこと、新規広告主の応募も歓迎しております。同窓会支部幹事の方々ならびに会員各位による広告主の開拓を切にお願いいたします。広告は随時受け付けており、広告料は親潮1年分について、以下のようになっております。

表紙裏面または裏表紙の両面

1 頁 80,000円

1/2 頁 40,000円

普通頁

1 頁 60,000円

1/2 頁 30,000円

1/3 頁 20,000円

北海道大学水産学部同窓会ホームページ のお知らせ



皆さま、北水同窓会にホームページがあるのはご存知ですか？

北水同窓会では、平成15年度からインターネットホームページを開設しています。

ホームページへのアクセスには、お手持ちのインターネット接続されているコンピューターから、<http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp> とご入力ください。

ホームページには、「お知らせ」や「投稿掲示板」、「写真集」、「リンク」などの項目がございます。また、同窓会会員の皆さまに最新の情報を提供できますよう、Topics欄を設けるとともに、「投稿掲示板」を通して同期会や同窓会などの通知や報告を行っております。

ホームページの充実を図るためにも、ホームページ掲示板への投稿文書、写真等を募集しております。同期会の呼びかけ、同窓会の報告、支部会の活動状況など、北水同窓生の交流の場として「投稿掲示板」をご利用ください。依頼文書や写真などは、下記メールアドレスへお送りください。なお、掲示板への掲載可否については本ホームページ管理者において決定させていただきますので、予めご了承ください。公的運用を目的とした掲示板ですので、個人的な宣伝活動、商業目的の宣伝活動、誹謗中傷記事などについては固くお断りいたします。

同窓会本部では、ホームページをより良きものにしていきたいと考えております。ホームページに関するご意見、ご感想などをお寄せください。

皆さま、北水同窓会ホームページを是非ご訪問ください！！

ホームページに関するご意見・ご感想は
alumni@hokusui.fish.hokudai.ac.jp
までお願いします。

— ◆ 本 部 だ よ り ◆ —

創基100周年の募金状況について

水産学部創基100周年記念事業推進専門委員会
委員長 猪上 徳雄 (41セ)

平成19年に迎えます水産学部創基100周年の記念事業に当たり、同窓の皆さんには、平成17年9月の趣意書の発送をもって募金をお願いを開始いたしました。その後、10月には会社・法人関係の募金も開始いたしました。平成17年5月の第85回定期総会で承認いただきました創基100周年記念事業に向けて、予定どおり今年度スタートを切ることができました。また、水産学部（水産科学研究院）としても記念事業に向け各専門委員会での取り組みも開始いたしました。これも同窓各位のご支援の賜物と感謝申し上げます。

平成18年1月段階の状況をお知らせ致します。個人の募金は367件（約510万円）、法人・会社関係では24社（約420万円）となっております。会社関係は手続きの関係もあることから、今後増えることが期待されます。

まだ寄附をされていない方、或いは、お忘れの方はもとより同窓各位の関連会社におかれましても、今後とも、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、創基100周年記念式典・行事等は、平成19年5月26日（土）、27日（日）の両日を予定しています。

— ◆ 寄 稿 ◆ —

ある一つの戦史
青函連絡船・戦災の碑

山井 喬志 (32ゾ)

1908年（M41）国鉄直営以来、青函トンネル（53.85km）が開通する1988年（S63）まで、本州

と北海道を結ぶ大量物流を担った青函連絡船が、姿を消して久しい。

現在、函館港には現役時代、エキゾチックなスタイルでその優美さを誇った「摩周丸」が悠久のロマンを湛えて、静かに時の流れを見つめている。

一方、青森港には当時の荒々しさをそのままに、どっしりとした巨体を横たえる「八甲田丸」の勇姿が、在りし日を偲ばせる。

太平洋戦争末期、米国は日本の大動脈「青函航路」の輸送ルートを断ち切らんと、海軍艦載機の大群を津軽海峡に集結させ、函館港、青森港に相次いで空中爆撃をしかけた。

1945年（S20）7月14日、青森港に在泊していた連絡船群は無防備のまま米軍機の攻撃にさらされ、損傷2、座礁炎上2を合わせて13隻（8/10撃沈の垂庭丸を含む）が、その犠牲となった。

翔鳳丸、飛鸞丸、第2青函丸、第6青函丸、そして未だに冷たい青森湾の海底深く眠っている津軽丸、第3青函丸、第4青函丸で、犠牲者は「131名」にのぼった。

中でも、当時「函館船員養成所・大沼支所」の生徒14名（全員14～5歳の少年）も乗り組んでおり、一際関係者の涙を誘った。

このニュースは、当時ごく一部でのみ報道された。

以来60年、関係者、遺族の「犠牲を後世に伝えよう、決して風化させてはいけない」の強い意思のもと、2005年7月14日青森港岸壁「青函連絡船メモリアルシップ・八甲田丸・船尾付近」に、記念碑「青函連絡船・戦災の碑」が建立された。

(2005・9・10)

北 水 馬 術 部

海洋生物資源化学科3年
佐藤 彩 (学生会員)

この度は貴重な誌面をお借りして北水馬術部の活動紹介をさせていただき、素晴らしい機会を設けていただきまして、厚くお礼を申し上げます。

この場をお借りして深く感謝の意を表したいと思います。

北水馬術部は現在2年生9名、3年生7名、4年生7名で活動しています。中心となっているのは私たち3年生ですが、毎年6月頃に代替わりを迎えます。

活動は平日火～金曜日の早朝と土日祝日の午前中です。また、春休みと夏休みには、5日間乗馬センターに泊り込みで合宿も行なっています。私たちは本学の馬術部とは違って自馬を持っているわけではないので、JRA函館競馬場乗馬センターで、先生方のご指導のもと、そこの馬たちをお借りして練習を行っています。基本的に練習に出るのは強制的ではなく、個人の判断で自主的に練習に通うという形をとっています。北水馬術部は長い歴史の中で消えたり復活したりを繰り返しながら今に至っているのですが、現在のこのスタイルになってからはまだ日が浅く、今回入部した2年生の代で6代目となります。

ほとんどの部員が函館にきてから乗馬を始める

ということもあり、実力も伴ってきていざこれから、という時期に惜しくも卒部となってしまうのは非常に残念ではありますが、皆、各自目標を持ち、日々の練習に励んでいます。努力次第でもっと上のレベルまで向上できるはずだと思っておりますので、より一層上達できるよう頑張りたいと思っております。

近年は、本学からの移行生も続いて入部し、数は少ないといえども積極的に試合に参加したことなどもあり、部全体の技術の底上げがなされてきていると思います。部員数も年々増加してきておりますし、努力家の者も多いので、これからも北水馬術部がより一層繁栄していくことを祈りつつ、皆で部全体を盛り上げていきたいと思っております。

そして最後になりましたが、私たちの部は日々の練習でご指導していただいている先生方をはじめ、まわりの方々の支援なしには成り立たない部活動でありますので、これからも感謝の気持ちを忘れずに練習に励んでいきたいと思っております。



— ◆ 支部・会員だより ◆ —

昭和34年卒同期会

伊藤 尚人 (34セ)

私ども昭和34年卒同期会が北海道洞爺湖温泉町において去る10月6日～7日開催されました。遠くは大阪より山中賢治君、川岸正次郎君など道内外より総勢28名が集いました。現根室市長・藤原弘君寄贈の同期会横断幕を背に記念撮影後北大寮

歌「都ぞ弥生」、水産学部北農寮「逍遙歌」等を斉唱、夜の更けるまで旧懐を暖めました。

前日には伊達カントリークラブで13名が秋晴れ快晴の下ゴルフコンペも楽しみました。

来年、平成18年は全員が古稀以上となるのを記念し、函館市にて再会を約束した事も合わせて同期会開催のご報告と致します。幹事代表・伊藤尚人 (セ)

幹事：阿部俊行 (ギ) ・市川修三 (セ) ・

佐藤慎一郎 (セ) ・親松 厚 (セ) ・

中川康之 (ゾ) 。

以上。



平成17年度
愛知県支部総会開催される

藤井 洋治 (42ギ)

2005.10.18 (土) 18:30より名古屋駅前のホテルアソシアの9階『エスペランス』において開催されました。

当日はあいにくの雨模様でしたが18名の方が参加されました。

本年度は5月に当支部にて全国総会を開催し、成功裡に終了しました。全国の御出席の皆さん有り難うございました。支部の皆さんご苦勞様でした。

総会では深谷勲支部長 (36セ)、三栗茂幹事長 (39ギ) の留任、深谷支部長 (36セ) より太平洋戦争前後の卓話の後、懇親会に入り自己紹介、趣味の同好会の設立の話等、話題が尽きず、最後に『都ぞ弥生』を斉唱して21時に終了しました。

次回は平成年度卒業の若者の出席を期待します。

出席者

野畑順二 (24セ)、野口信 (29ギ)、柴田勝明 (31エ)、深谷勲 (36セ)、加藤秀康 (37セ)、内田奎司 (37ギ)、野末秀俊 (38セ)、三栗茂 (39ギ)、近藤忠実 (40ギ)、原田洋一 (40ギ)、兼崎英勝 (41セ)、藤井洋治 (42ギ)

以上18名

二五会(昭和25年増殖科卒)の集い

小林 哲夫(25ゾ)

産卵のために群れをなして流れを遡るサケを間近に見たいとの要望から、平成17年10月12から14日に及ぶ二泊三日の日程で、近年、著しく増えた千歳川のサケや支笏湖周辺の秋を彩る紅葉の観賞を目的に「二五会の集い」を企画した。30名前後の参加者を予想したが、喜寿の年代ともなると体の調子を崩したり、遠距離旅行への不安などもあって、連れ合い同伴の8名と単身者4名の総勢20に過ぎなかったが、「集い」の第1夜を支笏湖畔の丸駒の出湯、第2夜は札幌の奥座敷の面影も残る定山溪の老舗の温泉宿で、何時ものように時を忘れての語り合いとなった。

貸切バスでの周遊は千歳川流域の隠れた景勝地といわれる王子の第一発電所(明治40年開設)の眺望を皮切りに千歳孵化場見学、ビール工場のレストランでの昼食、サケのふるさと館の見学、恵庭溪谷での滝の観賞、そして定山溪へと一日の観光となった。

期待された秋の彩りは例年より遅れ気味であったが、眼下に見下ろす第一発電所を包む色付き始めた原始林の樹海や由緒ある千歳ふ化場に相応しい明治以来の木々に、そして恵庭の溪谷の見事な

滝(白扇の滝)に映える紅葉に、心から北の大地の秋を親しむことが出来た。また、永い歴史を刻む千歳孵化場(さけ・ます管理センター支所)の歩みや今日の千歳川の豊富なサケの遡上を支える近代施設の大きさに、更には、サケの遡上をも観光に結びつけての「千歳サケのふるさと館」を中心とした西越捕獲場周辺の賑わいなどに、変わり行く時の流れを痛く感じさせられるなど、色々と思い出となる「集い」となった。

中でも、まだ明けやらぬ薄墨色の湖面に朝の一条の光が走る感動的な一瞬を露天風呂での湯浴みで体験した幸運、昼食時のジンギスカン(チルドのヒレ肉)の思い掛けない美味や工場出来立てのまろやかなビールの味覚が好評だったことなど、思いがけない収穫もあった。

第3日目の札幌での散会前の昼食会には支笏湖・千歳の周遊に参加できなかった札幌在住の仲間3名が来合わせて、ホテル自慢の季節の旬の料理に舌づつみを打ちながら、短い時間での歓談であったが健在を確め合った意義は大きい。最後に来年度には沖縄の「波照間島」での集いの開催に向けて、お互いに健康維持を約して散会となった。

・周遊参加者；

(同伴) 広崎芳次、伊藤博、岸本不二夫、
小林哲夫、鈴木愛子、高杉勉、渡辺慧二、
山代昭三



船着き場より 思い出の丸駒の露天風呂を望む

岸本不二夫 画('05、10、13)

(4)

(単身) 唐沢康、鈴木政雄、佐藤孝寿、
佐々木建

・札幌の昼食会参加者；
井田孝、西村与志雄、佐藤平康



八 紘 会 (昭和17年卒) 関 東 地 区 会 の 会 合

添田 恒 (17ヨ)

平成17年4月29日の恒例となっている会合で、
集会は年に2回とし、秋にも再会しようと申し合
せたが、10月14日に前回と同じ横浜駅東口近くの
「崎陽軒」で昼食会を開催した。前は8名の出

席であったが、今回は3名が体調を崩して欠席、
5名だけの参加で些か淋しい会合となったが、口
の方は皆達者で、元気に語り合って昼食会を終了。
療養中の友の一日も早い回復と、他界した多くの
級友の冥福を祈って散会した。

なお、当日の出席者は次の通り

青戸偕爾、新井邦夫、清水栄一、土屋 要、
添田 恒



創基100周年の募金に寄せて

吉田 弘司 (28セ)

話は少々遡りますが、平成9年11月におしよ
ろ丸が横浜港に入港した時のことです。私の長年の
記憶では、おしよろ丸が横浜港最大の大栈橋（通
称サウスピア）へ横付けしたのは初めてのこ
とでしたので、首都圏の同窓に広く呼び掛け、横浜

駅前の崎陽軒を会場として、歓迎会を催しました。

その席に、故佐藤正夫（旧姓星野30ゾ卒）君の
御奥様俊子さんが顔を出されました。実は、その
前年の神奈川県支部同窓会に佐藤君は出席してい
たので、まさか鬼籍に入っているとは知らずに案
内を出し、これを受けて御奥様が出席されたとい
う経緯です。

その後、若干のご連絡をしていましたが、今般
本学部が創基100周年の募金活動をしていること

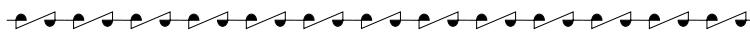
を知り、是非、主人の育った学部にお役に立つことをされたいとの意向が示されました。

11月、趣意書を持参して佐藤宅を訪問、改めて故人の意志を表わす場として、ご協力をしたとのことでしたので、事務局への振込みをお願いして退出しました。

雑談の中で、佐藤御夫妻の交際の始まりは、青

函連絡船のテープが取り持つ縁となったこと、夫婦仲の睦まじさ、そして一年余のガンとの闘病生活を真正面から向き合って必死に生き抜いてきたことを伺い知りました。

佐藤御夫妻の善意の浄財をされるに当たって一言お知らせします。 (平成17年11月記)



第15回臥牛会 みちのくに集う盛岡大会

日野 輝夫 (24セ)

臥牛会 (24セ1・2類合同同期会) 第15回総会・懇親会を去る10月11～12日、盛岡の奥座敷つなぎ温泉で開催しました。

昨年初夏、宮崎会長が当地に来られて盛岡開催の要請があり、岩手在住の会員は非常に少ないが、当方でできる範囲でということでお引き受けした次第です。早速釜石在住の井戸氏に電話して協力を要請、快諾を得て百人力の味方を得た思いでしたが、9月末いよいよ具体的に動き出そうと思っていた矢先、井戸氏の訃報に接し、愕然としました。とにかく小生一人ではどうにもならず、長沢氏の絶大な協力を仰ぎながら何とか開催にこぎつけることができました。

今回の参加者は30名(会員20名、ご夫人10名)と残念ながら今までで最も少ない会合となりました。お互い寄る年波、体調不良等止むを得ないことと思います。そんな中、井戸氏御夫人が参加してくださった事は、この会の絆の強さを如実に示すもので喜ばしい限りでした。

11日15時新装なった盛岡駅集合、ホテル出迎いのバスで秀峰岩手山を仰ぎながら30分程で、紅葉に映える御所湖畔のホテル大観に到着しました。17時30分過ぎ「紫苑の間」で総会を開会。長沢氏の開会の挨拶に次いで物故教官・会員に追悼の黙祷を捧げた後、会長宮崎氏の挨拶があり早速議案

審議に入りました。決算・予算承認の後、役員はそのまま留任願うことで衆議一決、次期総会は平成19年に行われる母校の創基100周年式典等に合わせ函館で開催することとし詳細は役員一任となりました。

続いて懇親会場の「姫神の間」に移動、参加の御夫人方も加わって記念写真撮影となりました。が折角持参いただいた臥牛会旗を持つのを忘れてしまいました。お詫び申し上げます。

予定時刻を少々遅れてお待ちかねの懇親会開始、宮崎会長挨拶に続いて小生より一言歓迎のことばを述べ、1・2類合同以来初参加の伴満氏の乾杯の発声が高々と杯を掲げた後、懇談に入りました。今回は一人3分以内の近況報告をお願いしましたが、皆さんそれぞれに豊富な人生経験の持ち主、簡単に時間オーバー、失礼ながら時間をきりつめていただくなどしているうちに予定の時間も瞬く間に過ぎてしまいました。恒例の逍遥歌を田畑収氏の音頭で高らかにうたいあげ、卒業以来初めて(56年ぶり)の再会となった小島一衛氏に中締め

の発声をお願いし一応の中締めとしました。話しの続きは二次会場「花筏の間」に持ち込み、夜の更けるのも忘れて回顧談に耽ったものです。翌12日も絶好の観光日和に恵まれ、ホテル仕立ての大型バスに一行24名乗車して9:00時出発、繫温泉近郊の「盛岡手づくり村」を見学、地場産品の展示即売所で土産物を求め、またある人は南部煎餅の手作りに挑戦するなど楽しい一時をすごしました。50分ほどで次の観光地「小岩井農場」に移動、雄大な岩手山の麓に広がる民間農場では

日本一と言われる総面積900万坪の農場の一隅にある「まきば園」に1時間ほど遊び、ちょうど12:00時盛岡駅での解散となりました。

不慣れな企画・進行でしたが、皆さんの暖かいご理解ご協力のもと無事終了することができました。感謝申し上げます。有難うございました。



前 列 (左より) 野畑順二、伴夫人、田畑夫人、大川夫人、長沢夫人、
宮崎夫人、荒木夫人、高橋夫人、志田夫人、長沢正徳
二列目 (左より) 日野輝夫、伊藤孝義、日野夫人、宮崎一郎、荒木道雄、
真壁賢治、北林 浩、伴 満、藤本俊彦
後 列 (左より) 石井 昭、岩崎恒治、大滝豊太郎、井戸夫人、
新井義昭、高橋 大、大川昭三、田畑 収、小島一衛、
宮崎昭雄、志田仁男



北海道大学水産学部第45期 卒業50周年記念 函館大会報告

狩野 守 (30七)

“流星落ちて棲むところ、鈴蘭の香の匂う郷、憧れの北国に集いしに、我等四年の夢短しと・・・” 抒情あふれる大島君の序詩に誘われ、“星の姿に憧れて、横津の丘陵を逍遙へば・・・” 朗朗と、万感を胸に肩を組み、共に歌った我が逍遙歌、今も耳に残り、残像脳裡に蘇える。この上ない好日であった。

9月29・30の両日、湯ノ川プリンスホテル渚亭を会場とし、昭和30年卒・第45期卒業50周年記念

大会が開催された。

開会に先立ち、物故者の御冥福を祈る。次いで、富田幹事長より、諸事情に鑑み、50年の節目となる今回をもって、全国大会は最後とするが、互に声をかけ合い、折りに触れ交流を続け合おう、との提案がなされた。毎年続けて来た事でもあり、残念ではあるが止むを得ぬ仕儀と思う。又、平成19年に母校が創基百周年を迎えるに当たって行なわれる記念事業推進への、特段の配慮を要請した。

やがて、マドンナ沼さんの発声により開宴するや、忽ち年輪を刻みながらも、英気と情熱に満ちた若き日の面影を残す学友との語らひは、堰を切った如く、あっと云う間の2時間であった。こゝで函館山夜景組と、2次会組に分れ、22時に再び

合流、夜の更けるのを忘れたものである。尚、函館山の夜景は、この時期には珍しく霧も出ず、下山まで惜しみなく、その全景を輝かせてくれたのは、誠に重畳であった。

さて翌朝は、部屋付の露天風呂より下北・津軽を望み、朝食の烏賊の刺身に満足し、ガイド付の観光バスに乘車、先づは母校へ向う。

母校では、北水同窓会本部の猪上幹事長が出迎えてくれ、水産学部の未来像のパンフの説明を頂き、懐しい講堂や水産資料館の案内をして頂いた。平日の忙しい中、誠に有難く参加者一同、心より感謝致しつつ母校を後にした次第である。

バスは巴大橋より巴港・臥牛山を望みながら、

立待岬へ向う。昔と違って、すっかり整備された岬ではあったが、遠い日々を想起させるに十分な情緒が有った。碧血碑前より元町界限を経て五稜郭に至り、6日に吊り上げられる新五稜郭タワーの巨大な展望台と対面、和気藹々の中にホテルに帰着、各々に分れを惜しみながら散会した。

好日去る。しかし、諸兄の好日の更なる事を切に、切に祈る。

幹事長 富田幸二

幹事 齊藤多実司、坂本藤吉、大島栄一、
池端 弘、金石和哉、唐牛公平、
狩野 守



前列（左より）柴田、原田（久）、肥田野、肥田野（夫人）、沼、望月、中根、西村、三輪

二列目（左より）松村、渡部、原田（昭）、山崎（守）、柿沼（夫人）、篠原（夫人）、松浦（夫人）、畠山、石橋、松浦（吉）

三列目（左より）倉島、古田部、篠原、滝沢、高沢、藤田、松浦（貞）、柿沼、坂井、坂本

後列（左より）大島、松井、篠田、山崎（和）、金石、山田、鈴木、狩野、海蛭名、唐牛、齊藤、富田、池端

北水同窓会
京滋支部総会・懇親会と新役員
目片 徳治 (33ゾ)

北水同窓会京滋支部の定例総会が開かれ、新支部長の選任もありましたので総会の様子共々、下記のとおりお知らせします。

記

1. 北水同窓会京滋支部総会・懇親会

京滋支部の定例総会は、11月5日夕刻からJR京都駅八条口のホテル京阪最上階にあるレストランで行なわれた。総会・懇親会は、年々参加者が増え、用意した会場に入り切れるのかと危惧していたがどうにか納まる17人の参加で開催され事業報告、会計報告に続いて支部規約の一部改訂、支部長改選と欠員のままになっていた宮津地区の幹事を選び、来年度からは、新体制役員のもとでの

さらなる発展を期して今年度の総会をメクくった。

引続いて行なわれた懇親会は、北水同窓会京滋支部生みの親である関岡先輩の乾盃の発声により開会されたが懇談盛んで料理が減らず、レストランの方から、次の料理の置く場所がないので食事のスピードを上げてくれないかとのクレームがつくほどの盛会であった。

話はずきなかったが予定時間も相当オーバーのため、京滋支部一層の盛会を期し、定番の“都ぞ弥生”の大合唱でしめくりとした。

2. 京滋支部新役員 ('06.1.1から)

支部長 小林正昌 昭39年・増殖

幹事

宮津地区 高木正夫 昭62年・漁業
京都府立海洋高校

滋賀地区 澤田宣雄 昭57年・増殖
滋賀県水産課



北水第38期 (22年卒)
北陸の旅に思う

市川 渡 (22ギ)

平成17年11月9日から10日かけて、北陸山中温泉と金沢兼六公園散策の第22回北水38期同期会が

開催された。最初、5月頃までの申し込みは40名と盛況が見込まれたが、途中、亡くなったお人、体調不良、検査でドクターストップ、思わぬ脳梗塞で倒れた、当日間際の肉親の不幸のお人などで結局29名、とは言いながらも今なお29名の出席は中々のものと思う。申し込みと最後の出席の歩留まりは毎年悪くなっている。やはり、お年のせ

いですかね。会合も観光も毎年のことながら楽しく過ごすことが出来た。80歳をとうに過ぎた人、80歳になった人、80歳間際の人と様々だが、どちらかと言うと馬力があってお元気なのは年長さんの方が多いようだ、浮世の辛酸を少し余分に経験していることですかね。

今回の同期会の特色は、58年振りの級友が出席、前以て知っていたので心の準備は出来ていた。年輪を重ねた80歳の老紳士も一目で『オッ』と言うこと、一言二言話すうちに昔の語り口や面影が甦ってきた、級友とはそんなものだ。毎回、未亡人の参加も有難いことだ。出欠を求めるアンケート、流石欠席者の大半は体調不良、いくつものお医者さんにかゝって悪戦苦闘している人、自分はそこそこだが奥さんがという人、中には奥さんの体調不良を伝えた後、奥さんを亡くした人もあり、辛い思いだった。未亡人の方からも多くの便りがあった。ご主人存命中、共に同期の皆さんと旅行が出来たことを懐かしみ、感謝の言葉を頂くとこちらにもジーンとしてしまう。中には早々と辞世の歌ならぬ狂歌を詠んで、その試作品の一首を紹介してくる愉快な友もいる。同期諸兄から良くとも悪くとも、近況やら消息を貰うのも級友の絆を思い感謝の気持ちになる。

実はこの同期会の会合、20回を越す頃もうそろそろと声が上がった。このようなこと衆議で決めると、継続の声が高くなる、21回目の幹事役は函館の仲間がやる。その際、キチンとアンケートを取って冷静に決めようと。結局、平成16年は青森県の古牧温泉と観光は十和田湖周遊と八甲田山麓の紅葉を鑑賞好評だった。宿題のアンケートも十人十色で色々な意見がでた。丁度、頃あいだし打ち切りの考えもあったが、同期会の解散は自然に従って前以て決めることはない、友情を大切に続けたいが大方の妥当な意見となった。そんなこと

で、平成17年以降は人間の比較的多い関東の仲間がお世話することになった次第である。

振り返って見ると第1回の同期会は昭和57年、北大水産学部創基75周年記念式典にあわせたものだ。まだ、皆んな50歳半ばから後半、体力も智力も経験、集中力も十分な年齢だった。日本の漁業も辛く苦しい時代、落日の残照の中だったが、何とかと言う気持ちで夕日を浴びて真っ赤になりながら、奮闘努力した何年かが続いた。そんな時代背景の中、北海道、関東、関西、関門九州の仲間が持ち回りでこの会合を続けた。気の置けない楽しいものだった。そのうちに、昭和の時代も20世紀も終わった。そして我々の人生も否応無しに後半、昨今の光陰は将にマッハの如し！そんな折、最近の北水同窓会、親潮誌285号（平成17年度第1号）に平成19年は北大水産学部創基100周年の記念式典の日程が発表された。奇しくも我々北水第38期（22年卒）にとっては、卒業60周年と記念すべき年に当たる。とにかく平成18年は続けて関東の仲間が同期会をやる。19年は函館が声を上げてくれた。よろしく頼みます！ここに来て新しい目標が出来た。まずは風邪引かぬよう、転ばぬよう、自分自身の摂生と養生で、函館の母校で同期諸兄の多くの会合を望んでいる。我々の上のクラスも人数は少なくなったものの、まだお元気に会合を続けている。まだまだ、頑張っていかなきゃ～。

当日の出席者は次の通り、◎印は同伴

◎市川渡、◎小笠原敏雄、◎菊池良兵、◎西山作蔵、◎米倉進、大山公男、中平放、府川博一、松宮敏、石田静恵、上草和子、坂入富美子、◎岡村迪彦、◎片岡光一、◎村井正雄、宇野浩、川上永央、説田彰一、村山捨儀、江渡唯信、船田重夫一

29年卒 長靴会の集い

川原 浩 (29セ)

昭和29年卒同期会、通称〔長靴会〕を、10月25日（火）に「東京帝国ホテル」で開催しました。

ここ数年、函館、名古屋、札幌と持ち回りの形で各地で開催して来た長靴会も、去年は卒業後半世紀の区切りとなった事もあって、卒業50周年記念大会として「函館花びしホテル」で開催しました。今回は久しぶりの東京開催ということで、会場選定については在京有志が中心となって色々と検討を重ねてきました。

その結果、普段はなかなか集まることのなく、豪華でしかも格調の高い同期会を開催しようということで「帝国ホテル」に決めました。

当日は北海道から名古屋までの同期生37名、同伴夫人6名、故人の夫人3名の46名参加となりましたが、従来は案内をしていなかった故人の夫人もお招きして、仲間から故人の思い出を聞いて貰おうという狙いもありました。卒業仲間の約3割近くが既に他界しており、本人の健康状態や配偶

者の看護による欠席者の増加もあって、半世紀という年月の重さを、あらためて感じさせる同期会でもありました。

午後5時半の記念写真撮影から始まった会合は物故者に対する黙祷、東京地区川原の挨拶、名古屋地区、野口君による乾杯と進み、懇談の時間となりました。

さすがは帝国ホテルと、ご夫人達から絶え間ない賞賛の言葉が出るほど、ワゴンサービスを始めた洗練された食事とワインを堪能する事が出来ました。

懐かしい昔の思い出話、孫達の成長ぶりなど、幅広い話題を交わしている内に、予定の2時間があっという間に過ぎ去ってしまいました。

終わりに、全員が肩を組んで輪を作り逍遙歌を合唱したあと、東京在住の中島君による中締めで閉会となり、名残を惜しみ再会を約して別かれました。特に二次会の席は用意しませんでした。三々五々、夜の首都圏の雰囲気を楽しんだようでした。

終



青春を甦らせる臥牛会（第2報）

眞田 博美（28セ）

前に親潮282号の「会員だより」でご紹介しました通り臥牛会は囲碁を楽しむ趣味の会で北大水産学部（高水も含む）の同窓生で構成され、2ヶ月に1回の割で奇数月の15日の正午から夕方5時過ぎまで、東京駅八重洲地下街のいずみ囲碁ジャパン（TEL 03-5202-6093）で開催しております。

また、年に1回ホテルなどに泊りこみで囲碁の研修を兼ね旅行会を行っております。

お蔭様で会員も増え、現在23名で段級位別構成は次の通り。

七 段	2 名	二 段	6 名
五 段	1 名	初 段	4 名
四 段	5 名	1 級	2 名
三 段	3 名	計	23 名

今回は臥牛会の近況報告を兼ね、昨年の一泊旅行会の模様についてお知らせしたいと思います。

昨年の9月15日正午から16日正午にわたり、神奈川県相模原市相模原駅前オリエンタルホテルで

総勢14名参加され、今迄になく盛況でした。

過去の習わしでは参加者全員総当りが原則でしたが、今回は多人数のため時間的に無理と考え、当日抽せんで、A、B 2組に分かれ、夫々の組内で総当りとし、優勝者が決まれば最後にA、Bの優勝者同士で優勝決定戦を行うことに決めました。

今回の参加者14名のお名前及びA組、B組のクラス分けは次の通り。

A 組	B 組
小 坂 五段（34ゾ）	眞 田 七段（28セ）
伊藤準 四段（32ゾ）	小 高 四段（29ゾ）
磯 部 四段（32エ）	細 井 四段（37セ）
梅 室 二段（32エ）	吉 田 三段（28セ）
小 川 二段（29ゾ）	佐 藤 初段（28ギ）
白 石 初段（28セ）	湯 浅 初段（28ギ）
川 原 初段（29セ）	伊 藤 和 1 級（28エ）

ホテルの閑静な一室で始まった男同士の真剣な対局は、互にきびしいまなざしで、相手の石の動きを追い求める苛烈な戦を展開する場と化しました。

それは巷間では味わえない一種独特の緊張感を堪能させてくれます。対戦成績は次の通り。



A 組 対局成績表

	小坂	伊藤準	磯部	梅室	小川	白石	川原
小坂五段		○	×	○	○	×	×
伊藤準四段	×		○	○	○	×	○
磯部四段	○	×		○	×	×	×
梅室二段	×	×	×		○	○	○
小川二段	×	×	○	×		×	×
白石初段	○	○	○	×	○		○
川原初段	○	×	○	×	○	×	

(対局の手合割については親潮282号をご参照下さい)

A 組 優勝者 白石 初 段
 B 組 優勝者 眞 田 七 段

以上の二人の対戦の結果、今回は眞田七段の優勝が決まり、白石初段の準優勝と佐藤初段の三位が夫々決まりました。

お互い年相應の年輩となり、最近は体調の不調をうたえる者が多くなって来た中、今回奮ってご参加下さった方々に改めて感謝申し上げたいと思います。

会終了後夜の宴会では、お酒が入ると威勢のいい話が飛び出し数々の耳新しい声が聞かれ、期せずして同席者を笑いのうずに巻き込む等頬笑ましい雰囲気にもまれた幸せの一夕でした。

B 組 対局成績表

	眞田	小高	細井	吉田	佐藤	湯浅	伊藤和
眞田七段		○	×	○	○	○	×
小高四段	×		○	○	×	○	×
細井四段	○	×		×	×	○	○
吉田三段	×	×	○		×	○	○
佐藤初段	×	○	○	○		×	○
湯浅初段	×	×	×	×	○		×
伊藤和1級	○	○	×	×	×	○	



現在の臥牛会の役員構成は次の通り。

連絡先

会長 伊藤 準 (32ゾ) TEL 047-391-2885

世話役 小高 洋 (29ゾ) TEL 03-3390-7897

ク 小川法章 (29ゾ) TEL 047-355-5461

同窓生の中で囲碁に興味をお持ちの方で入会を希望される方がございましたら、ご遠慮なく上記3名のどなたでも結構ですのでお電話戴きたいと思っております。お待ちしております。

終りに過日読売新聞(夕刊)に掲載された陳舜臣先生の記事に、いたく感銘を受けたので下記にご紹介したい。

作家でもある陳先生の囲碁の歴史に迫る掘り下げたご説明には素人の我々でも良く理解でき、説得力のあるものと深く感服した次第である。

記

正倉院展 碁盤が語る日中交流

正倉院は奇跡の建造物である。創建は天平年間(729-749)とされ、すぐ隣接する東大寺の大仏殿が、なんども炎上したのに、正倉院は千二百年、ほぼ同じ姿を保っている。



今回(第57回)の正倉院展で最も私の胸に迫ったのは

もくがしたんききよく

木画紫檀碁局(碁盤)

であった。現在でも碁による日中交流は極めて盛んだ。

遣唐使も対局?

正倉院には碁盤が三面伝わっており、今回展示されたのが最もすぐれている。「国家珍宝帳」にも記載されていて、聖武天皇の遺愛の品であることは間違いない。

囲碁のことを「手談」といい、対局して無言のうちに意を通じることが出来る。言語の壁はないので、日本の遣唐使も、渡唐すると唐の要人とよく対局したであろう。空海や最澄が渡唐した遣唐使の一行にも伴小勝雄(とものおかつお)という碁の名手が随行していた。とくにこの時代、唐の皇太子(のちの順宗)の側近に王叔文という碁の名人がいて、すべてをとりしきっていたので、碁は特に盛んであった。

「日本人は強い」

日本人は碁が上手だという評判は、このころよく知られていたようだ。唐の蘇鶚(そがく)のあらわした「杜陽雜編」(自序は878年)に日本の王子が唐に来て、唐随一の碁の名人顧師言と対

局した話を載せている。勿論これは小説であって事実ではないが、九世紀の頃の唐の人の日本人観が反映されている。唐のナンバーワンの顧師言もやっとのことで勝った。辛勝だった。

日本の王子は鴻臚卿（外相）に「顧先生は唐で何番目に強いのですか？」と尋ねた。「三番目です」と外相は国威をかけて顧師言のランクを少し下げて答えた。「ああ、小国最高の棋士も、大国第三位の者に及ばぬのか」と王子は嘆いた。それだけの話だが、日本人は碁が強いという定評があったことが分る。

正倉院の碁盤は現在と同じく十九路のもので、漢墓の明器（副葬のため特製した器物）が十七路である。隋の張盛墓のものはすでに十九路になっている。権謀術数の三国時代では十七路では物足りなくなったのだろうか。棋譜さえ残っておれば、孔明や曹操の性格がわかって、いろんな歴史の謎が解けたはずである。

碁盤といえば、ずっしり重い感じがするものだが、正倉院のものは床脚が、波形の削り抜きになっていて、見た目には大層軽そうである。

随張盛墓出土のミニチュア碁盤も同じ形式で、どうやら当時は、持ち運んで好きな場所で対局した様だ。ただ盤面は現在のものより稍広くなっている。

盤の四側面には狩獵文や禽獸文が配されている。想像の動物もあれば、あきらかに駱駝と分るのも

あった。駱駝にせよライオンにせよ日本人は見たことはない。大袈裟に言えば、これは日本人の世界を広げてくれたのである。

紅・紺の碁石

ものを削って小型にするのが日本のお家芸かと思っていたら、碁盤の場合はそうではないようだ。あるいは中国にも重厚な盤もあり、たまたま遣唐使が持ち帰ったのが削り抜き型であったのかも知れない。

例えば碁石といえば、我々は黒と白に決まっていると思うが、今回展示されたものには紅と紺があった。しかもその一つ一つに花枝をくわえた鳥の模様が入っている。

尚、碁石入れの容器も今回展示され、その蓋には象が描かれていて、これも当時の日本人が見たことのない動物なのだ。

正倉院には碁盤はあるが、将棋盤はない。碁は中国で生まれ、将棋はインド起源というのが定説である。

碁は易や陰陽思想と関係があるかも知れないが、中国起源であることは間違いない。

それにしてもこの正倉院碁盤の側面の模様は駱駝をひく胡人など、どうみてもシルクロード調である。世界帝国時代の唐の主潮だったのかも知れない。

栃木県支部総会・懇親会報告

阿久津正浩（平9ギ）

平成17年度北水同窓会栃木県支部総会・懇親会が、12月10日（土）、ホテルサンシャイン（宇都宮市）にて開催され、出席者は15名でした。

総会は、下河原支部長（25セ）のあいさつ、手塚さん（25エ）の乾杯の発声で始まりました。次期支部長に大友さん（44ゾ）が満場一致で承認されました。また、現幹事長の河村さん（59食）に替わり次期幹事長として沢田さん（54ゾ）も満場一致で承認されました。

懇親会は、近況報告を交えながら進行し、大先輩から若手まで世代の垣根を取り払い、親睦を深めることができました。次回も今回以上の会員の方が参加されることを期待しております。

（写真）

前列向かって左から、大友時夫（44ゾ）、手塚充（25エ）、下河原修（25セ）、和多裕子（平10ゾ）、常松秀則（42エ）、関本正明（43食）

後列向かって左から、宇賀神光男（47食）、河村研二（59食）、酒巻弘三（45化）、吉川賢次（44ギ）、阿久津正浩（平9ギ）、沢田守伸（54ゾ）、石島久男（48ゾ）、落合幸二（48ギ）



壽洋会(24年遠漁卒)函館に集合

松浦 亮平（24エ）

2005年10月5日、15年振りに同級会開催地として選んだ第二の故郷函館、そして会場は湯の川プリンスホテル“渚亭”に同僚16名と同伴3婦人が集まりました。今年には戦後60年にあたります。思い出こそば我等紅顔の美少年45名は、翌年21年4月、旧制函館水産専門学校に入学しましたが、当時学校は米軍に占拠され翌年春まで東川小学校での仮校舎、厳しい寒さと食糧難で勉強どころでは

なかった寮での共同生活も、今では懐かしく楽しい思い出深い学生生活であったと記憶しております。

あれから60年の時代の流れは完全にこの街が一変してしまった様に思われる今、筆者は5日の午前中船見町の名前通り絶景と言われる山の手街道から港の光景を眺めをと、当時の思い出を辿りつつ弁天町の電車終点を起点に、おしよろ丸と船乗り時代にもお世話になった函館ドック、寮生活でイカ釣り船に縁ありの住吉町、あの有名なカラヤンのコンサートを居眠りで聴いた弥生小学校前の通りを護国神社？から坂道を下って、その昔賑わ

った丸井デパートと商店街のなくなった十字街へ、電車道を横切って海岸通りへ出る、北洋向け漁船も青函連絡船もなくなった港は船の出入りも少なく何とも殺風景。旧倉庫の立ち並ぶレンガ通りは知恵を絞った近代的なショッピングセンターに立派に様変わったが、10月のシーズンオフとは言え閑散とした館内に疎らなお客、駅前通りを過ぎ華やかで松風町界隈もすっかりたそがれてしまい、全盛期を謳歌した我々の第二の故郷はもう遠い昔の存在になってしまった様な感じがして一抹の寂しさを覚えた3時間の散策でした。しかしあの戦後の混乱時、優しく我等を育み貴重な思い出を沢山作ってくれたこの街は永遠に我が心の故郷、第二の故郷なんだと自戒する。

今回の同級会は毎年観光地を選び2泊3日でしたが、今回は久し振りの古巣でと計画したが、見所の大沼公園の紅葉にも早いので、当日の夕食の宴会を主体に一泊とし、後は各自で久し振りの函館を有意義なプラン作りでエンジョイして貰う事で立案しました。

改めて数えれば我等昭和21年に入学45名の同志も今年古希を迎え77才を数え、今回の集まりが16名、欠席4名（ご無沙汰続きの5名入れて総勢25名）と寂しくなりました。でもこのお友達宴会中の何とその飲みっぷりの良さ、解散後も2次会で夜遅くまでと、胃袋の強さには感服、見る通り記念写真でもこれからの面構え、我もがつい「負

けたらあかん」と励ましを自覚、来年は東京近辺での再会を決めて散会となりました。

翌日は全員で名物「いかソーメン」を添えての朝食会でお別れ、皆さん知人宅の訪問へ、又一部は恵山へバスで昔は海〔イカ釣り〕から、今度は山からの海峡眺めで、共に在りし日の思い出に浸ったことでしょう。

序ながら筆者は会の前日に15年振りの大沼公園に紅葉の兆しを求めて行きましたが、未だ10月しかも初旬では未だ無理、でも秋晴れの駒ヶ岳、樹間より眺める景色の素晴らしさに改めて感銘を受けて来ました。時期的に日本人観光客は余り見かけなかったけど、3台の観光バスで台湾高校生の修学旅行団？に加え熟年のおばさんの団体ツアーで結構な賑わい、中には恋人同士カップル多く見かけたのにはビックリ、このグループもこの雄大な駒ヶ岳と大沼公園との素晴らしい光景を楽しみ、深く脳裏に刻んで帰国し話題としたに違いないと想像し、函館をこよなく愛する元道産ん子が自慢と優越感を味わった小さな旅でした。

今回の参加者16名は下記写真左後方より、富井、菊池、舛田（旧姓大野）、今野、加賀谷、西、室沢、渡辺、中央列左から松浦、安井、日野、安住、最前列左から、東原、鹿角、高橋夫人、安住夫人、所持夫人、高橋、所持、の各兄です。

幹事役 松浦報告



平成17年度
北水同窓会長崎支部例会報告

大坂 幸男 (63ゾ)

標記例会が1月19日、長崎市内のホテルで行われ、支部会員11名が出席しました。始めに支部旗を背に集合写真を撮影した後、中部長次郎(17ギ)支部長の挨拶を頂きました。その後、大滝英夫さん(23ギ)の乾杯のご発声を受けました。次に新メンバーとして、北里海雄さん(61ゾ)と新井博文さん(平3食)が紹介されました。一方、いつも支部会に参加してくださっている会員の方々が体調を理由に出席されていないことなど残

念な報告があり、特に副支部長である岩見真一さん(17ギ)が入院なされるというショックな出来事も報告されました。懇親会に入り、緊張もほぐれ、自己紹介を行い、しばし歓談。その後「水産放浪歌」と「都ぞ弥生」を大合唱し、最後の「締め」を木村義徳さん(24ギ)にお願いし、支部例会は幕を閉じました。

[参加支部同窓生]

中部長次郎(17ギ)、大滝英夫(23ギ)、木村義徳(24ギ)、北川大二(49ギ)、大泉拓二(50ギ)、藤田伸二(55修漁)、征矢野清(61ゾ)、北里海雄(61ゾ)、大坂幸男(63ゾ)、長江真樹(平3ゾ)、新井博文(平3食)



— ◆ 追 悼 ◆ —

一途で律儀だった
石瀬和正君(22ギ)を思う
市川 渡 (22ギ)

平成17年7月30日、級友石瀬和正君が逝った。78歳、肺ガンだった。現在の男性の平均寿命、78歳余とは言いながら、まだまだ早い死だった。彼の健康状態についてこゝ1-2年ほど心配だった。同期会や我々のちょっとした会合には必ず参加してくれたが、皆の目にも以前の元気一杯さはなく、体の衰えが話題になった。初めは甲状腺ガンと聞いて、患部に触ったことがある。肺に急激に転移していたようだ。奥様の話によると、体調が急変して3日間の入院で亡くなったそうだ。最愛の奥様とギリギリまで家で暮らし、最後は家族に看取られたと聞いた。長い看病を奥様にさせることなく、彼自身、最高の『奥さん孝行』をしたのではないか。

石瀬和正君の人生は見事、立派の一言に尽きる。学校卒業後、一つの会社に海上勤務も含めて50年、一途に勤めあげて、サラリーマンの頂点である社長になった。これは一途ばかりでは成れるものでなく、本人の資質、努力、才能、人望、指導力などによるものである。また、水産、海運業への貢献、功勞によって、平成10年秋、勲三等、瑞宝章の叙勲、受賞の栄誉を受けた。更に、北水同窓会の会長を今年、5月末まで勤めた。これは名誉職の最高のものである。

一途と言えば、奥様との恋愛、結婚、仲の良さは旧制中学時代からの有名な話で、爾来、60年余、その愛情を貫き通した。昨年(平.16年)秋、青森県、古牧温泉での同期会、奥様と共にカラオケ、都はるみの『浪速恋しぐれ』を最後まで歌った。彼の歌なんて、聞いたことも見たこともない、ビックリした。歌と言えば、せいぜい『君が代』とっていた。聞いているうちに、夫婦の情愛と年輪を感じてなにかジーンとしてしまった。見事な夫婦だ。

スポーツ、趣味としたラグビー、これも大阪の旧制北野中学からたゞ一筋、一途。学生時代から社会人リーグ、監督として、また、地域の少年たちへの指導と目一杯ラグビーにのめり込んだ。エピソードには事欠かないが、昭和22-3年から25-6年にかけて母校にとってはラグビー全盛時代だった。彼は漁業科から更に遠洋漁業科に進学24年に卒業した。ラグビーを続けたい気持ちがあった。私達にとっての宿敵、九州の西南学院とは、インターカレッジで激闘、優勝を何度も争って遂に涙をのんだ。今でも、当時のラグビーの後輩達は石瀬キャプテンと慕い続けている。その西南学院のヒフティーンとは40数年後に再び交歓、ノーサイド、石瀬君や当時の仲間たちも大感激！ラグビーで培った精神、友情、絆など彼の人生に大きな影響を与えたのは間違いない。

通夜、葬儀には沢山のラグビーの友人、関係者が参加してくれた。

律義と言えば、私達の同期会、ちょっとした会合にも万障繰り合わせて参加してくれた。これは、会社、業界、団体、行事、ラグビー、慶弔、その他諸々の会合、とにかくマメに律義だったと聞いている。晩年、さゝやかな趣味とした大極拳、体調が悪くなっても欠席せず、姿勢を正して見学していた、『律義なお人』と、通夜の客が話していた。我々のさゝやかな会合、『北水黄門会』が今年2月に開かれた。『気合だ！何事を差しおいても出席します。毎回、真実にご苦労様です』と返事、皆と会う前に体調を整えるべく、1時間以上もソファーに横になって待っていた。電話のやりとりは7月にもあったが、それが彼と会った最後になってしまった。律義そのものだった。

生涯、何事にも目立つ男だったし、何となく中心人物だった。語るに尽きないが、ペンを置くこととする。出棺の最後、綺麗に洗われていたが、汗と土にまみれたラグビーボールが収められた。石瀬和正君！安らかに眠り給え。アーメン。

宮野平三君(23セ)の急逝を悼む

白田 正臣 (23セ)



去る10月17日の夕刻、函館同期の木村喬久君から、青森の宮野平三君が急逝された旨の電話があり、余りにも突然のことで一瞬愕然とした次第。早速御自宅

に連絡したところ、長男安弘様から、今朝心筋梗塞で亡くなられた由伺い、たゞたゞ驚き以外の言葉を見付けることは出来ませんでした。

実はつい4ヶ月程前の6月15日に、青森県浅虫温泉で、23年卒製造科一同の全国大会が開かれ、宮野君はその実行の代表幹事として企画設営から一切を主催されました。また翌日には、十和田湖周遊の小旅行まで計画されて昨今だいぶ年令を経て来た一同を、楽しい青春時代の交歓の場に戻らせていたゞきました。その時の得意気な宮野君の姿が忘れられません。

宮野君は、23年3月卒業後たゞちに青森製氷株式会社に入社、以来現在まで同じ会社で一直線に仕事を続けてきた稀にみる人材でした。冷蔵庫、魚市場、水産加工、社の内務等社業のすべてにわたって仕事を盡くし、昭和46年に役員、そして平成12年からは社長としてトップの座につき、戦後の貧困の時代から大発展した現在に至るまで、それこそ社の顔として、更には県水産業界の実力者として業界に臨んで来ました。この度のご逝去に際しては、県水産業界各位からも、心からの哀惜の声が大きくあげられた次第です。

10月20日の通夜そして21日の葬儀には、同期生として青森県の米沢達也、斎藤健(ゾ)、北海道から函館の行友恭一、三笠の直江光昭そして東京から小生が参列し、さらに青森県在住の多くの同窓の方々なども参加されて、学生時代からの故人の思い出話にふけりました。やはり真面目で実直な性格と、人との付き合いに誠実な人柄、巾広い人間性の思い出が多く、そして特に学生時代から

の歌好き、上手さが今に至るまで続いていたことなど、直前まで元気で活躍していた姿を思い浮かべて懐かしく語り合った次第です。

おわりにあらためて、同期生一同から、心からのご冥福をお祈り申し上げます。

大先輩 新谷泰造さん(9セ)に捧げる

前網走支部長 倉 健蔵 (24ギ)

新谷泰造さんは平成17年12月27日にお亡くなりになりました。奥さんを始め親族の見守る中で静かに息を引きとられました。享年94才でした。葬儀は自ら信仰する金光教を祭主のもと「にいほら斎場」にて大勢の人に見守られ厳そかに行われました。

新谷さんは昭和9年北海道大学水産専門部を卒業後日魯漁業に勤務され退職後は家業をつがれ石油販売、漁業に従事されました。平成元年四月に新谷商店会長に就任されております。

新谷さんは長年に亘り北水会網走支部長として後輩を指導されましたが、私が後をつぎ昨年若い人に引受けて貰いました。

一昨年の総会でご挨拶をされ、御自分の一代記とも云える一生の歩みをはなされ大変示唆に富む有益な話を賜り一同に深い感銘を与えました。

又、御自分が名誉会員の西ロータリークラブで卓話をされ終りに皆に話をする最後になると云う言葉が妙に印象に残りました。

新谷さんは網走漁協組合長、北見漁船組合長、太平洋鮭鱒組合長、観光協会会長、自民党支部長等の公職に就かれその功績が認められて平成3年11月に黄綬褒章を受けられました。

昭和12年より俳句をされ41年12月にホトトギス同人となり弟子の育成に当りました。

大先輩は(同窓生)の網走支部の誇りであり未だ未だ長生きして吾々を指導して頂きたいと思っておりましたが残念でたまりません。

一同心より御冥福をお祈り致します。

会 員 死 亡 通 知

佐藤 一成 (元教官) 平成15年12月27日 逝去
ご家族様より

井上喜平治 (8ヨ) 平成16年7月30日 逝去
伊丹宏三 (23ゾ) 様より

新谷 泰造 (9セ) 平成17年12月25日 逝去
網走支部より

城所 和民 (10セ) 平成17年10月9日 逝去
三栗 茂 (39ギ) 様より

黒川 祐一 (14ギ) 平成17年8月 逝去
荒木英二 (14ギ) 様より

飯塚 三郎 (14セ) 平成17年4月10日 逝去
ご家族様より

梶川 太郎 (16ギ) 平成18年1月8日 逝去
高木英男 (59ギ) 様より

増渕 淳 (16ギ) 平成17年12月21日 逝去
三崎支部様より

阿部 善徳 (19ギ) 不明 逝去
高橋豊美 (44ギ) 様より

楠瀬 和男 (19ギ) 平成18年1月2日 逝去
ご家族様より

横山 吉郎 (19セ) 平成14年10月5日 逝去
ご家族様より

飯田 佳一 (23ギ) 平成17年1月16日 逝去
ご家族様より

池田 豊 (23ギ) 平成17年10月6日 逝去
服部晴夫 (23ギ) 様より

朝井 忠三 (23エ) 平成17年9月30日 逝去
鈴木梅二 (23エ) 様より

宮野 平三 (23セ) 平成17年10月17日 逝去
木村喬久 (23教セ) 様より

木村 喬久 (23教セ) 平成18年1月8日 逝去
猪上徳雄 (41セ) 様より

遠藤 昇 (24セ) 平成17年8月18日 逝去
鈴木梅二 (23エ) 様より

大沼 良明 (24セ) 平成17年8月8日 逝去
長澤正徳 (24セ) 様より

伊賀 昭夫 (24ゾ) 平成16年10月14日 逝去
柴田 元 (34ギ) 様より

岡野 惣市 (24ゾ) 平成17年5月13日 逝去

ご家族様より

野平 昭二 (25ギ) 平成16年12月1日 逝去
ご家族様より

石井 健児 (25セ) 平成17年4月28日 逝去
ご家族様より

越前 和雄 (25セ) 平成17年9月3日 逝去
ご家族様より

細川 和彦 (26ゾ) 平成17年11月16日 逝去
中道克夫 (26ゾ) 様より

水口 繁 (26ゾ) 平成17年4月15日 逝去
ご家族様より

能口榮三雄 (28ギ) 平成16年9月24日 逝去
久保邑男 (28ギ) 様より

平塚喜三夫 (28ギ) 平成17年8月21日 逝去
平川龍治 (28エ) 様より

古谷 昭生 (28エ) 平成17年10月19日 逝去
伊藤和夫 (28エ) 様より

柏原 浩之 (28セ) 平成17年12月5日 逝去
小野隆男 (50食) 様より

八木 忠夫 (29セ) 平成17年6月3日 逝去
岡川 伸 (29セ) 様より

新見 寿 (29ゾ) 平成17年9月3日 逝去
岡川 伸 (29セ) 様より

柏尾 義治 (30ギ) 平成17年11月1日 逝去
滝沢 清 (30エ) 様より

飯田 襄 (30エ) 平成17年7月29日 逝去
倉崎勇治 (30エ) 様より

倉部 魁 (30エ) 平成18年1月21日 逝去
倉部 徹 (60ギ) 様より

吉識 義明 (30エ) 平成17年8月6日 逝去
安田 睦 (30エ) 様より

石黒 俊彦 (32ギ) 平成17年11月29日 逝去
ご家族様より

工藤 勲 (33ギ) 平成17年3月27日 逝去
ご家族様より

近藤 格 (35ゾ) 平成17年8月15日 逝去
ご家族様より

松川 武 (38エ) 平成17年11月15日 逝去
吉田康夫 (36エ) 様より

西村 紀夫 (39セ) 平成17年9月12日 逝去
ご家族様より

見上 隆克 (41ギ)	平成17年11月10日	逝去 学内より
室山 精作 (42セ)	平成14年	逝去 佐藤光広 (42セ) 様より
工藤 孝 (44エ)	平成17年11月23日	逝去 後藤純弘 (43ゾ) 様より
太田 隆男 (48化)	平成17年12月14日	逝去 福永健治 (63食) 様より
塚本 昌弘 (51ギ)	平成16年 8月29日	逝去 ご家族様より
土肥 和彦 (52ゾ)	平成17年11月 1日	逝去 下村政雄 (41ゾ) 様より
中田 淳 (53ゾ)	不明	逝去 道立稚内水産試験場様より
安部 智 (平4ギ)	平成17年 6月	逝去 学内より
池永 岐子 (平13資)	平成16年	逝去 ご家族様より

◆ 学内ニュース ◆

学位取得者と論文題目

〔北海道大学博士 (水産科学) H17. 6. 30〕

論文博士

北原 繁志：沿岸構造物におけるヤリイカ産卵礁に関する研究

〔北海道大学博士 (水産科学) H17. 9. 26〕

課程博士

相原 光人：Biology and Taxonomy of *Neolamprologus brevis* Species Complex from Lake Tanganyika (Perciformes: Cichlidae)
(タンガニイカ湖産カワスズメ科魚類 *Neolamprologus brevis* 種群の生物学および分類学的研究)

野入 善史：海洋への鉄散布による二酸化炭素固定の加速実験における鉄と温度の複合要因

論文博士

伊藤 篤：Adaptive significance of seasonal migration in the periwinkle *Nodilittorina radiata*
(アラレタマビキの季節移動の適応的意義に関する研究)

会 員 異 動

(平成17年 6月 1日から11月30日)

転 任

17. 10. 1 野田 隆史 海洋生物資源科学部門
(元修増) 海洋生物学分野
(北大大学院地球環境科学研究院へ)

着 任

17. 10. 1 和田 哲 海洋生物資源科学部門
(平4ゾ) 海洋生物学分野助教授
(熊本大学沿岸域環境科学教育研究センターから)
17. 10. 18 岡本純一郎 海洋生物資源科学部門
(特) 資源保全管理戦略分野
教授
(水産庁から)

有朋自遠方来不亦楽乎

(平成17年 8月～平成18年 1月)

(敬称略)

海洋生物学 (旧浮游生物学講座)

佐野史和 (平15海) 8/14、阪本之暢 (平15海) 8/29、望月万美子 (平10ゾ) 9/1、宮崎和貴 (平10ゾ) 9/1、服部 愛 (平17海) 9/23、雑賀 修 (53ゾ) 11/16、河村章人 (37ゾ) 12/3、大西健美 (平

9 ヲ) 12/22、山田雄一郎 (平9 ヲ) 12/22

(55食) 1/18

資源生物学 (旧資源生物学講座)

坪井潤一 (平13生) 11/25

海洋環境物理学

渡野辺雅道 (平元ギ) 1/10

海洋資源計測学

木和田広司 (平12ギ) 11/10~11/11、笹岡晃征
(平8ギ) 1/20

旧海洋学気象学

平野忠彦 (63ギ) 8/18、山下和則 (54ギ) 10/5

育種生物学 (旧水産植物)

石川竜子 (平13修増) 9/17、工藤周子 (平15生)
9/17、松永 淳 (平15生) 9/20

海洋生物工学 (旧応用生物科学)

増田悠輝 (平13海) 8/17

海洋生物工学 分子生物学 (旧高分子)

鈴木弘子 (平15資) 4/28、千葉 智 (平元化)
5/20・11/25、加藤真菜美 (平15資) 8/15、鈴木治
正 (平15資) 8/17、樋口智之 (平10化) 11/19、佐
藤 愛 (平13資) 12/2、土居哲平 (平13資) 12/2、
上山惟太 (平11資) 1/8

生物資源利用学 食品機能化学 (旧水圏食糧科
学)

椎名健太郎 (平17資) 9/5、芳賀喜祥 (平15資) 9
月、片山 茂 (平11資) 12/28

生物資源利用学 (旧食品化学第一)

和根崎 智 (平9食) 8/27

生物資源利用学 (旧生化)

石川大介 (平13資) 8/12、金子健一 (平14資)
8/15、朴信虎 (平14修生) 9月、早川和徳 (平13
資) 10/15、佐藤 真 (平3食) 1/10、田中晴生

表紙写真の説明

今号の表紙写真は水産学部講堂です。かつて周
りを取り囲むようにあった建物は写真中央、玄関
の上の内部にわずかに残るのみで、今の講堂はひ
とつの独立した建物となっています。この講堂、
外壁は現在藤色に塗られていますが、撮影者が学
生だった20年ほど前は薄い黄色だったような気が
します。また、その頃は「トドウラ」の通称で呼
ばれていました。いま周囲の学生たちに訊いてみ
るとこの通称も余り使われなくなってきているよ
うです。

さて、この講堂では毎年3月末に水産学部と大
学院の卒業式が行われます。間もなく行われる今
年の卒業式では、博士の学位記取得者、列席する
教授陣は、アカデミックガウンと角帽 (国立系の
それではありません) を着用することになりました。
卒業式の風景もこれまでとはまた違った雰囲気
になって行くのかも知れません。

《編集後記》

平成17年度の「親潮」第2号（通算286号）をお届けします。これまで連続3回の編集を担当させていただきました。不手際も多々ありましたが、今回で一応1年半の編集作業を終えることができました。深く感謝申し上げます。

今号の巻末には、会費納入用の振替伝票とともに、創基100周年募金用の「水産科学研究院教育研究・学术交流支援基金」宛ての振替伝票を綴じ込みました。それぞれ宛先が異なりますのでご注意ください。よろしくお願いいたします。

次号の原稿締め切りは平成18年7月15日を予定しております。会員の皆様には「親潮」に多くの原稿をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

（編集幹事 安藤靖浩）

親潮投稿規定

1. 掲載文の種類と文字数などの制限

- (1) 会員の受賞：本文880字以内
- (2) 寄稿：本文5,280字以内
なお、この制限以上の長文あるいは連載希望の寄稿文については3号分までとする。
- (3) 支部・会員だより：本文1,760字以内
なお、弔文については代表者一名に限る。
- (4) ご案内：本文880字以内
- (5) その他：掲載の可否および文字数の制限については編集部が決定する。

発行 平成18年2月28日
編集兼 猪上 徳雄・阿部 周一
発行人 平石 智徳・安藤 靖浩
発行所 北海道大学水産学部同窓会
(TEL/FAX 0138-42-3681)

Eメールアドレス：hokusui@hotmail.com

ホームページアドレス：http://hokusui.fish.hokudai.ac.jp

印刷所 三秀印刷 TEL.23-6663 FAX.27-5135

いま豊かな食生活。
見直しましょう魚のある暮らし。

青森市中央卸売市場

中水

青森中央水産株式会社

代表取締役社長 石川 栄一

〒030-0183 青森市卸町1番1号
鮮魚1部 TEL 017(738)1281
鮮魚2部 TEL 017(738)1281
冷凍部 TEL 017(738)8221
塩干部 TEL 017(738)5511
加工部 TEL 017(738)6581
企画部 TEL 017(738)1281
管理部 TEL 017(738)1181
E-mail: Comment@aochuu.co.jp
ホームページ: <http://www.aochuu.co.jp>



楡山上ノ国沖 水深38~40m
乱積み魚礁群内部に蟠集するエゾメバル

人工魚礁による
水産資源の保護・増殖に
貢献します

海洋土木株式会社

<http://www.kaiyodoboku.com>

本社: 東京都中央区銀座3-8-13
TEL: 03-3561-3051

代表取締役 鉢木和三(38ゾ)
常務取締役 眞田篤弘(43化)
青森営業所長 青山禎夫(39ゾ)
北陸営業所長 中道五郎(39ゾ)

食品工場、厨房内の
自主検査のお手伝いをします。

★HACCP・ISO導入指導及び検証・評価・改善指導

- ★食品の微生物検査
- ★施設類・道具・器具類の拭き取り検査
- ★食品・副資材・調理室内の微生物の除殺菌テスト
- ★食品の賞味期限の設定
- ★保存テストのデータ蓄積
- ★その他衛生指導、社員教育などの御相談をお受けします

株式会社 キュー・アンド・シー

代表取締役 奥野和弘(昭和42製造)

松原 伸二(昭和62化学) 久保 雅俊(平成12資源) 佐藤いく子(平成17食品)

分析室 〒065-0026 札幌市東区北26条東22丁目6-7 ☎(011)786-8300 FAX(011)786-8266

豊富な実績と万全な体制でさらに前進をつづけます。

NAKAYAMA MEDICINES CO. LTD



株式会社 **中山薬品商会**

代表取締役社長 中山 浩一

本社 ☎040-0064 函館市大手町9番18号
PHONE (0138) 23-6275・FAX22-8098
釧路営業所 ☎084-0903 釧路市昭和町2丁目15番地3
PHONE (0154) 52-4101・FAX52-4103
<http://city.hokkai.or.jp/~nakayama/>

営業種目 船舶機装用品並各種船用品全般・諸機械・工具類
塗料・帆布・ロープ
(海運局公認、膨張式救命いかだサービスステーション)

北海道大学水産学部 おしよる丸 連絡事務所
うしお丸

北海道船用品株式会社

取締役社長 伊藤 大介
支店長 唐戸 幸一
所長 伊藤 陽介

本社 室蘭市海岸町3丁目3番5号 電話0143(代)②1321番
支店 函館市弁天町25番2号 電話0138 ③0721番
営業所 苫小牧市汐見町1丁目2番2-106 FAX0138 ③5420番
電話0144 ③52601番

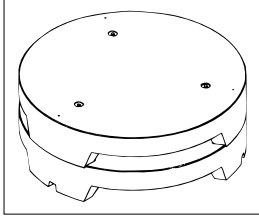
(有) 山本食品研究所

山本 巖
山本 律彦

〒914-0812 福井県敦賀市昭和町2丁目2316番地
TEL (0770) **23-0297**(代)
FAX (0770) **24-2882**
E-mail y-f-labo@aqua.hokuriku.ne.jp

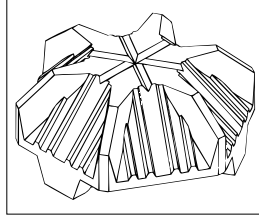
未来への海づくりを考える

円形セピア



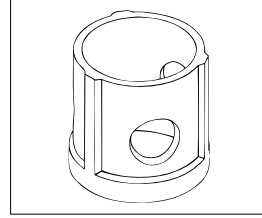
・ヤリイカ産卵場造成

マリノプランテーション



・多目的藻場造成

3.0円筒型魚礁



大型魚礁造成
人工礁



共和コンクリート工業株式会社

代表取締役社長 本間 丈士

水産開発部技術顧問 田中 毅 (昭44増殖)

水産営業部長 (青森支店駐在) 足助 光久 (昭40増殖)

海洋事業本部副部長 (札幌本社駐在) 薫田 道雄 (昭44増殖)

本社 〒060-0808 札幌市北区北8条西3丁目28番地(札幌エルプラザ11階)

TEL(011)736-0204 FAX(011)736-0205

北水同窓会 青森支部

支部長 奈良岡 修一 (昭47ギ)

支部長代行 佐藤 立治 (昭36エ)

幹事長 天野 勝三 (昭54ゾ)

事務局 〒030-8570

青森市長島一丁目1番1号

青森県農林水産部水産振興課

二木幸彦 (昭56ギ)、田澤 亮 (平16シ)

TEL: 017-734-9594

FAX: 017-734-8166

住所変更届け用紙

勤務先・自宅等に変更が生じたときは必ずご連絡ください。
連絡は電話、FAX、E-mail、郵送のいずれも可です。
切り取ってご利用下さい。

卒業 年次	昭 平	(漁・遠・製・食・化・養・増・特専 海・シ・生・資) 科卒	
フリガナ 氏 名		フリガナ 旧氏名	
現 勤 務 先	勤務先及び部署		
	役職		
	〒	T	F
	所在地		
現 住 所	〒	T	F
	自宅住所		

送付先：

〒041-8611

函館市港町3丁目1番1号

北海道大学水産学部北水同窓会

電 話

0138-42-3681

F A X

0138-42-3681

Eメール

hokusui@hotmail.or.jp

02		払込取扱票				通常払込料金 加入者負担	
口座記号番号						金額	
0	2	7	8	0	8	千	百
6	1	2	2	3		十	万
加入者名 水産科学研究院教育研究・学術交流支援基金						金	額
通						料	金
信						特	殊
欄						取	扱
ご依頼人 おとところ(郵便番号)						受付局日附印	
おなまえ (電話番号)						様	

各票の※印欄は、払込人において記載してください。

これより下部には何も記入しないでください。

郵便振替払込請求書兼受領証

口座番号	0	2	7	8	0	8	通常払込 料金加入 者負担
右詰めに記入ください							
加入者名	水産科学研究院教育研究・学術交流支援基金						
金額	千	百	十	万	千	百	十
払込人住所氏名	おなまえ						
料	受付局日附印						
金	様						
特殊取扱							

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。
切り取らないで郵便局にお出しください。

02 函館		払込取扱票				通常払込料金 加入者負担	
口座番号 (右詰めに記入ください)						金額	
0	2	6	2	0	5	千	百
						十	万
						千	百
						十	円
北水同窓会						金額	
※ 本会々費は4,000円です。勤務先等お書き下さい。						特殊 取扱	
加入者名 通 信 欄 昭・平 卒業 学科 年度分 受領書 要・不要						受領書	
払込人住所氏名 (郵便番号)						受付局日附印	
払込人住所氏名 (電話番号 - -)							

各票の※印欄は、払込人において記載してください。

払込票兼受領証

口座番号	0	2	6	2	0	5	通常払込 料金加入 者負担	
右詰めに記入ください								
							金額	
							千	百
							十	万
							千	百
							十	円
北水同窓会							金額	
加入者名							特殊 取扱	
払込人住所氏名								
(消費税込)							受付局日附印	
料 金							円	
特殊取扱								

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押しください。切り取らないで郵便局にお出しください。

吉原法律事務所

弁護士・海事補佐人 吉原 美智世

(昭和48年増殖学科卒業)

《業 務 内 容》

法律問題に関する紛争処理(交渉・訴訟・調停)・
企業法務・会社の再建・倒産処理・会社顧問・
交通・労災・医療事故・行政事件・刑事弁護・
相続・遺言・自己破産・個人再生

(法律相談30分5,000円)

☎ **011-622-7963**

FAX **011-622-8414**

札幌市中央区大通西20丁目2番20号 道新円山ビル8階

交通 地下鉄東西線西18丁目駅1番出口

E-mail yosihara@sapporo-law.com